

( 理 ) 科における平成 29 年度授業改善推進プランの検証

<p>取り組みにおける成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○観察・実験の技能・表現を高めるために、実験・観察の頻度を高めた。結果を分析する「思考力」や「表現力」については向上傾向にあるが、正確に自らの考えを文章にしたり、発言したりすることは未だ課題が残る。</li> <li>○3 学年では、基礎的な知識定着率に向上が見られたが、知識の活用にまだ課題が残る。2 学年では、確認テストや問題演習を行ってきたが、基礎的な知識の定着に課題が残る。</li> <li>○電子黒板等の活用により、資料提示の頻度が増え、発言などの様子から授業に意欲的な生徒が増えてきている。</li> </ul>
---

( 理 ) 科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1 学年：教科の正答率は目標値に対して 2.3 ポイント上回った。ほとんどの分野で目標値を上回ることができたが、生物分野のみ目標値を下回っている。</li> <li>○2 学年：教科の正答率は目標値に対して 2 ポイント下回った。特に『地学分野』を苦手とし、目標値に大きく届かない結果となっている。</li> <li>○3 学年：教科の正答率は目標値に対して 0.7 ポイント上回った。特に『動物のからだのつくりとはたらき』では目標値を 12.6 ポイント、電流の正体では 21.9 ポイントと大幅に上回った。一方で前年度同様『化学』と『生物』で目標値を下回る結果となった。</li> </ul>
観点別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1 学年：全ての観点において目標値を上回ることができた。ただし、上回ったポイントが他の観点に比べ、「知識・理解」で若干低い結果となった。</li> <li>○2 学年：「思考」では目標値を 2 ポイント上回ったが、その他の観点では目標値を下回っている。ただし、全体的に見ると昨年度より正答率はわずかに上昇傾向にある。</li> <li>○3 学年：「知識」では 2.1 ポイント上回ったが「関心」、「思考」、「技能」において目標値を 1～2 ポイント下回った。特に思考が全国的にも苦手であることがわかった。</li> </ul>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

<ol style="list-style-type: none"> <li>1 観察・実験の「技能」・「思考」・「表現力」を高める。 各学年とも観察・実験について「技能」に加え、「思考」・「表現力」の向上を目指す。生徒が主体的に観察・実験を行うことで技能を高める。また、観察結果を表に整理して共通点や相違点を捉えさせるなど「表現力」の育成を図る。</li> <li>2 各学年とも単元別の問題演習や確認テスト等の頻度を増やし知識の定着、活用力の向上を目指す。</li> </ol>
---

( 理 ) 科の授業改善策

<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験や観察をもとに生徒が自ら思考し、考えを表現する機会を増やす。表現されたものに対して添削や生徒相互の振り返りができるようにする。</li> <li>○用語や語句に対して正確な記述ができるように、単元別の問題演習や確認テストの頻度を増やし、生徒が繰り返し学習する機会をさらに増やす。授業毎に、既習事項の確認を行い学習内容の関連性を理解させていく。</li> </ul>
--